

共栄社

ラフ用無人芝刈機で

ゴルフ場の人手不足解消

芝草管理機メーカーの共栄社（林秀訓社長、愛知県豊川市）は、光センサー技術「LiDAR」を活用したゴルフコースのラフ用無人芝刈機の実用化に向けた研究機を開発した。



無人3連ロータリーモア

し、2019年9月からフェアウェイモアの無人芝刈機をテスト販売している。

今回の研究機には、LiDARを搭載することで、木々に覆われている場所やラフ等、強く精度が求められる場所での無人走行が可能となり、様々なシーンでのゴルフ場管理を無人化できる。

この研究機は、同社とリンダグループで新規事業を手掛けるリンダ総合研究所が共同研究所を行い、千葉大学大学院工学研究院知能機械システム

研究室の大川一也准教授が研究協力して開発した。この研究で得た知見を生かし、新たに実用可能なラフ用無人芝刈機の商品開発を行い、2023年を目途にテスト販売を行う予定。製品名は「UGM170（仮称）」。

同社では、2011年から人口減少によるゴルフ場作業者の人手不足や技術伝承の問題が起きていることを予見し、ICT技術を応用した無人芝刈機の開発に本格的に着手

「作業員の人手不足の解消につながる。また、休暇取得や突然の退職による作業シフトへの影響も軽減でき、働き方改革にもつながる」という。